

製品名: IQGAP1 (14X7) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12719**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50
分子量	189kDa

抗原情報

遺伝子名	IQGAP1
別名	lqgap1; p195; SAR1;
遺伝子 ID	8826.0
SwissProt ID	P46940
免疫原	ヒト IQGAP1 の合成ペプチド

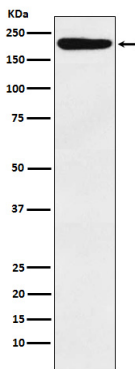
背景

活性化 CDC42 に結合するが、その GTPase 活性を刺激しない。カルモジュリンと会合する。入力シグナルを細胞膜でのアクチン細胞骨格の再編成に結びつける多分子複合体の組織化のための組み立て足場として機能する可能性がある。アクチン細胞骨格のダイナミクスと組み立ての制御に重要な役割を果たしている。活性化 CDC42 に結合するが、その GTPase 活性を刺激しない。カルモジュリンと会合する。入力シグナルを細胞膜でのアクチン細胞骨格の再編成に結びつける多分子複合体の組織化のための組み立て足場として機能する可能性がある。神経突起の伸長を促進する可能性がある (PubMed:15695813)。DNA 複製停止後の細胞周期の進行に寄与することにより、細胞周期の制御に役割を果たす可能性がある (PubMed:20883816)。

研究分野

Adherens_Junction;アクチンと細胞骨格を制御します。

画像データ



HeLa 細胞溶解物中の IQGAP1 発現のウェスタン プロット解析。